

平成21年9月11日 特許登録第4373905 取得

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-184388

(P2006-184388A)

(43) 公開日 平成18年7月13日 (2006. 7. 13)

(51) Int. Cl.			F I			テーマコード (参考)	
G02F	1/13	(2006.01)	G02F	1/13	101	2H088	
B08B	1/02	(2006.01)	B08B	1/02		2H090	
B08B	1/04	(2006.01)	B08B	1/04		3B116	
B08B	3/02	(2006.01)	B08B	3/02	C	3B201	
G02F	1/1333	(2006.01)	G02F	1/1333	500		

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2004-375727 (P2004-375727)
 (22) 出願日 平成16年12月27日 (2004. 12. 27)

(71) 出願人 398029234
 新崎 優一郎

(74) 代理人 100082669
 弁理士 福田 賢三
 (74) 代理人 100095337
 弁理士 福田 伸一
 (74) 代理人 100061642
 弁理士 福田 武通
 (74) 代理人 100095061
 弁理士 加藤 恭介

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液晶表示装置の基板表面を洗浄するブラシ組立体および液晶基板洗浄装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、液晶表示装置における基板表面を洗浄するブラシ組立体および液晶基板洗浄装置に関するものである。

【解決手段】 本発明は、異なる形状をした直線ブラシ、ロールブラシ、カップブラシから構成され、また、それぞれのブラシが異なる速度で駆動制御されているブラシ組立体からなる。前記直線ブラシは、前記基板表面上を直交する方向に往復移動を行なうものである。前記ロールブラシは、前記基板表面上を転がり摩擦が発生する方向に回転する。前記カップブラシは、前記基板表面と、ブラシの回転面とが同じである。そして、本発明の液晶表示装置の基板表面を洗浄するブラシ組立体は、前記直線ブラシ、ロールブラシ、カップブラシの内の少なくとも二つを組み合わせるにより、異なる形状と異なる駆動速度により相乗効果を発揮して、液晶表示装置の基板表面の隅々までを均等に、かつ、効率良く洗浄することができる。

【選択図】 図1

